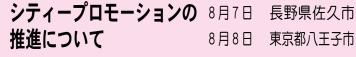
委員会活動報告 先進地などへ視察調査

総務常任委員会



8月8日 東京都八王子市

長野県佐久市及び 東京都八王子市のシ ティプロモーション の取組を視察した。

佐久市のシティプ

ロモーションの目的

は、人口減少を緩和するために市内への移住を促 進することである。

佐久市は、ビジネスチャットツール「Ŝlack」を 活用した自治体初の移住のオンラインサロン「リ モート市役所」と「試住(=お試し移住)」の支援及 び補助金サービス 「Śhijuly」の取組により、イ ンターネットを介して交流人口、関係人口を増や すことに成功している。

ターゲットを「20代~40代の東京圏在住の移 住希望者」に設定しており、インターネットとい うツールがターゲットの世代にマッチしている。

東京近郊に位置しベッドタウンとして発展して きた白岡市においては、「都市部から地方への転出」 といった意味での移住の対象にはならないが、特 色のある企業の誘致等でシティプロモーションに 活用できるコンテンツを増やすなど、立地を生か した関係人口、交流人口を増やす施策を期待する。

八王子市のシティプロモーションの中心にある のは、「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」 というブランドメッセージである。

このブランドメッセージは、公募で集まった市 民が考え、市民の選挙によって決定された。この ような意思決定に参画した人達は、その後も市に 関心を持ち続けてくれるものであり、シビックプ ライドの醸成につながる。

また、八王子市の特徴は、庁内の意識醸成のた めの「インナープロモーション」の取組である。市 のブランド価値を高めるためには、市の職員一人 ひとりがブランドの担い手であることを意識する ことが大切との思いから、職員としてのあるべき 姿をまとめた冊子「みちBOOK」やブランドメッ セージ入りのネックストラップを全職員に配布し ている。それらによって職員の市に対する誇り

や愛着が醸成さ れるのであれば、 決して無駄では ない。当市にお いても、同様の 取組をしてはど うか。



児童虐待防止について 7月18日 千葉県野田市

野田市で発生 した児童虐待死 事件から4年が 経過したが、全国 で虐待事件は後 を絶たない。こ



のような事件が起こらないようにするため、野田 市が行った三つの対策について、当市で早急な対 応が必要である。

(1)通報があれば、すぐに現場(学校や幼稚園、

保育園など)に行き、児童生徒を市役所で保護す るという早期発見体制の構築

(2)訪問した時に拒否されれば重篤と判断し、警 察に連絡するというスムーズな連携体制の構築

(3)教育委員会内に子ども家庭総合支援課分室を 配置。また、児童相談所とリアルタイムで情報共 有できる児童虐待防止管理システムを導入。更に、 実務者会議や個別支援会議を頻繁に開催し、関係 者間での情報共有、問題意識の共有化を図ると いった各機関との連携不足の解消